

藤波こども園

園長だより

No. 52

令和元年10月23日
文責 竹原 篤



旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園

秋空のもと、子どもたちは日々の活動に加え、ホーム運動会や運動会あそびを楽しんでいます。こども園の運動会が終わった後に、子どもたちからホームで運動会をやりたいという声上がり、各ホームで月組(年長)の子どもたちが中心となり、子どもたちの思いから「ホーム運動会」をすることになりました。各ホームで進め方や内容に違いはありましたが、子どもたちがプログラムを考え、司会・進行をすることができました。自分たちがやったことを年下(年中・年少)の子どもたちに優しく教えたり、一緒にやったりと温かい雰囲気の中で楽しく運動に親しむことができました。まわりで見ていた雪・桃組の子どもたちも「ホーム運動会」をはじめは遠巻きに見ていました。そんな中、ミッキー体操やパプリカの曲が聞こえてくると勝手に身体が動き出し、自然に運動に親しんでいました。また、乳児の子どもたちにホームのお兄さんやお姉さんたちが優しく教えたり一緒にしてくれたりしている姿も見られました。園庭にいる子どもたちみんながとてもよい雰囲気に包まれてホーム運動会や運動会遊びを楽しむことが出来ました。



最後に年長の子どもたちから年中・年少の子どもたちへ手作りのメダルが贈られました。その後、サプライズで年下の子どもたちから感謝のメダルが年長の子どもたちに贈られました。どちらのメダルにも相手の思いに対して、感謝の気持ちがいっぱい込められていたことと思いました。

雪組と花組は遠足で梅の子公園へ行きました。「ローラーすべり台恐くないもん」と言って何度も滑り楽しんでいる子どもたちや「恐いから痛いから」とすべり台には行かない子どもたち。公園内だったら自分がやりたいことを自由にでき、一人ひとりの楽しみ方の違いを認め合った時間が多くあり子どもたちは、のびのびと活動を楽しんでいました。させられる活動ではなく、自分がやりたいから楽しみたいからするという内発的動機による活動のため、「もっとやりたい・またきたい」と帰り道や帰りのバスの中でつぶやいていました。

星組と月組は遠足で京都市立動物園に行きました。事前に動物園で何の動物が見たいか自分の思いを出し合いました。「ぼくはぞう わたしはきりん」などと自分の見たい動物の名前が次々と出てきました。当日各ホームで5～8人の子どもたちが動物園の地図を見ながらみるコースを相談し、自分の見たい動物へは自分が地図を持ってリーダーになりみんなを連れて行きました。先生は最後尾からついていくという方法で子どもたちが地図や看板、動物の泣き声などを情報元にして連れて行ってくれました。「道に迷ったり・トイレに行きたかったり・もう少し見ていたかったり・早く次の動物を見に行きたかったり・恐くて中には入れなかったり」と様々な状況が生まれてきました。このような場合でも先生からの指示や指導は無く、日頃のこども園での活動と同じようにみんなの思いを出しながら話し合いで決めることができました。話し合いを聞いていると相手の気持ちを推し量ってお互いが譲り合った内容で小学校の生活科と同じレベルいやそれ以上の活動内容にとっても驚きました。

運動会や遠足のような行事だけでなく日々の遊びや生活の中で『子どもたちがやりたいことをやりつくす、やりたくない子どもの思いもしっかり受けとめ尊重する』このような取り組みの成果だと思いました。わがままではなく、どうしてやりたくないのかを子どもに寄り添って子どもの思いを聞き、どうしたらやりたくなるのかどうしたら楽しくなるのかを考えていくことも大切だと思います。そのためには教師や保護者・大人に心と時間のゆとりが必要だと切に感じました。

自らの力で楽しんだ遠足の様子



🌸ありがとうございます🌸

【いただきました】

- | | | |
|--------|-----|--------|
| ①じゃがいも | 横江浜 | 青井さんより |
| ②さつまいも | 横江浜 | 青井さんより |
| ③かぼちゃ | 南船木 | 八木さんより |
| ④数珠玉 | 上小川 | 中村さんより |

